

高温（夏期）対策のチェックリスト

露地野菜

【事前対策】

内容	チェック欄	備考
夏期に高温障害を受けやすいほ場では、野菜類の作付けをなるべく行わない。代わりに緑肥作物を作付け、土壌の異常乾燥、表土の飛散を防止する。やむを得ず野菜類を作付ける場合は、寒冷紗の浮きがけ遮光による気温・地温の降下と土壌の乾燥抑制や白、シルバー等マルチによる地温低下を図る。		
ほ場の保水性、排水性を高めるため、堆きゅう肥の施用や緑肥作物の作付け・鋤込み等により、優良な有機物をほ場に供給し、土作りに努める。		
深耕を行うなどして、耕盤を壊すことにより、作土層を深くして作物の根を深層まで張らせる。		
季節予報等により高温が予想される場合、ほ場かん水に使用できる畑灌、井戸、用水等について予め検討しておく、乾燥対策（揚水ポンプ、水タンク、動力噴霧器等）の準備、かん水チューブ、点滴かん水チューブ等を設置しておく。		
作物の生育状況、週間天気予報等から、かん水の優先順位、方法・量を判断してかん水、散水を行い、順調な生育と品質確保を図る。		

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。

高温（夏期）対策のチェックリスト

【事後対策】

内容	チェック欄	備考
生育初期で被害が甚だしく、回復の見込みがない場合は、植え替え、まき直しを行う。		作物被害が激しい場合。
作物の被害状況を確認して、今後の栽培計画を検討する。夏期の高温は広範な地域に影響を及ぼし、供給量の減少も予想されるので、できるだけ収穫・出荷に努める。		回復を図る場合。
高温が一息ついたら、枯死した茎葉を切除し、殺菌剤による防除を行い、病原菌の2次感染や腐敗防止に努める。		回復を図る場合。
高温乾燥により根や葉が傷んでいる場合は、薄い液肥を葉面散布し生育回復を図る。作目によっては、側枝（わき芽）を利用する。		回復を図る場合。

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。